

一般質問



児童虐待やいじめはないか

食育教育をどう進める

藤原万正



利用可能年数が大幅にのびる最終処分場

ごみの減量化は進んでいるか
下延最終処分場の限界は

質問 十月はごみ減量化推進月間である。平成五年に

始まったごみ減らしリサイクル運動の現況はどうか。又ここ数年ごみの減量化は進んでいるのか。来春の食品リサイクル法の完全実施に對しどう対応するのか、下延最終処分場は何年使えるのか。

市長 ゴミ回収量は、平成六年に三町村(中仙町除く)で一万八千二百十四トンであったが、ここ数年、毎年一万一千〜一万二千トンであり、仙北市の一人当たり排出量は十六年が千十八グラム、県平均は千九十一グラムで食品リサイクルの関係では、当市は県平均を下回り基準をクリアしている。ピンは現在不燃物扱いだが、今後再利用に変えたい。生ごみの保有水分が五十六%と高い。生ごみ処理容器並びに電動式生ごみ処理機の購入促進の為、補助金をだす。周知をはかり、利用してもらいたい。

下延最終処分場は当初利用可能年数を十五年と想定したが稼働しての五年間は収容能力の約八%の利用であった。条件が変わらなければ相当年数使えると思う。

児童虐待やいじめはないか

質問 大仙市で児童が虐待された件は未だ記憶になまなましい。当市では児童虐待はないか。

社会に對する教育の信頼を取り戻す必要がある。

いじめ問題の取り組みは？
要保護児童対策地域協議会は設置されているか。

教員 いじめについての取り組みであるが、間違った認識があった。従来いじめられる側にも問題があると言わ

れてきた。しかし、いじめは許されないもの、又被害者は守り通さなければならぬ姿勢が大事だと認識したい。人権侵害として即対応すべきものとして考えていく。

当事者だけでなく、いじめてる側の保護者等からも情報を聞き地域の保護者や地域の人とも連携して、いじめをなくすよう努力していきたい。

なお、児童福祉対策協議会は年度内設置に向け準備中である。

食育教育をどう進める

質問 近年、食を大切にすることが欠如、バランスの偏った食事、肥満、痩身、過度のダイエット、糖尿病等生活習慣病の広がり、伝統ある食文化の喪失、食の安全性など食が問題化している。

知育、徳育、体育の基礎として二年前、食育基本法が制定されたが食育についての考え方並びにその推進策について伺いたい。

教員 食についてを教育として取り上げなければならぬのは残念である。

しかし、学校教育、学校給食の中で人間形成も加味しながら家庭への呼びかけ、地域

の生産者との連携をとりながら進めていく。
具体的には「早寝、早起き、朝ごはん」の運動を取り組んでいく。

今年の除排雪対策は

質問 政府は十八年豪雪に鑑み「豪雪地帯基本計画」を変更し、具体策をスタートさせた。

仙北市ではどのように変更計画を実施するのか。特に除雪、流雪溝について伺いたい。

建設部長 政府が見直した閣議決定は国、県から未だ届いていないが注視しながら進めていく。

昨年の問題点は第一に機械の対応能力、第二に各地域の路線問題、第三にオペレーターの資質の向上等である。反省を活かせるよう業者と話しを進めている。

具体的には、出勤時間の見直し、三幹線(旧三町村地域)の時間内の除雪作業の完結、軽微物損事故の業者保険対応、高齢者の除排雪困難な人が自宅前に雪を残さない除雪の仕方、合併による効率的路線の整理等の改善に取り組んでいく。